

- 学力向上総合対策事業
- 社会生活にいきる言語活動推進事業
- 科学の甲子園全国大会に出場して／県立吉田高等学校
- スーパーグローバルハイスクール／県立甲府第一高等学校
- 家族で元気UP！
- 博学連携の取組／県立考古博物館
- 博学連携の取組／県立文学館
- 学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して
- 学校紹介／甲府市立伊勢小学校・身延町立身延中学校
- 県立美術館「美し、やまなし、パワー！～山梨の女性アーティストたち～」
- 県立文学館特設展「宮沢賢治 保坂嘉内への手紙」
- 県立博物館シンボル展「よみがえる、ふるさとの宝たち」
- 県立博物館企画展「医は仁術」・シンボル展「近世甲州医人伝」
- 山梨近代人物館紹介／近代山梨を築いた人々
- 山梨の文化財／万寿森古墳
- 訪問型特定保健指導について
- 家族で元気UP！教室
- 「第71回国民体育大会関東ブロック大会」いよいよ開幕！
- 県立博物館協会の会員募集のお知らせ
- 県立考古博物館開催の講座・セミナーのお知らせ
- 県立考古博物館「わたしたちの研究室」作品募集

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「人」

山梨県立身延高等学校

第3学年 小林 亮介

指導者：天野 圭 教諭

山梨県教育委員会

学力向上総合対策事業

～ 学校・家庭・地域が連携して取り組む学力向上～

義務教育課

1 事業趣旨

県教育委員会では、「新やまなしの教育振興プラン」の基本理念である“未来を拓く「やまなし」人づくり”の実現を目指し、各課・室の取組を推進しています。学力向上については、全国学力・学習状況調査において、多くの教科が全国平均を下回るなど課題が明らかになり、特に喫緊の課題として捉えています。こうした状況に早急な対応が求められる中、学力向上に対応したこれまでの取組を一層改善、充実させるため、今年度より新たに「学力向上総合対策事業」を立ち上げ、学校、家庭、地域が連携して学力向上に取り組むこととしました。

本事業では、学力向上のための校種間連携を推進するため、授業づくりの視点を「やまなしスタンダード」として共有し、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校が、同じベクトルで授業改善の取組を推進する「縦のつながり」を強化することにしました。また、併せて、教育委員会の各課室が取り組むそれぞれの事業の「横の連携」を深め、学力向上に向けた総合的な対策に各課が協働して取り組んでいくこととします。

学力向上総合対策事業

〔義務教育課関係事業・抜粋〕

| | | |
|--|---|---|
| <h3>授 業 改 善</h3> <p>〔改善〕山梨県学力把握調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査を前提に、節目となる学年における児童生徒の学習の定着状況を把握する。 採点業務を業者委託することにより、結果を早期に公表し、1学期からの課題改善を目指す。 <p>〔継続〕授業改善プラン実践事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 県が示す「授業改善のポイント」を基に「授業改善プラン」を作成し、その活用及び研究成果の普及を通して、県内小・中学校の授業改善を促し、児童生徒の確かな学力の向上を図る。 学力向上フォーラムを通して研究成果を普及する。 <p>〔新規〕学力向上アクティブ・ラーニング推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用型学力(B問題)の向上及び次期学習指導要領の改訂に向け提唱されている「21世紀型能力」の定着への全県的な対応を図る。 4校の実践検証校におけるALに関する研究及び実践を通して、学習内容や指導方法の改善を促進し、確かな学力の向上と教育課程の充実を図る。 | <h3>教員の資質向上</h3> <p>〔継続〕若手教員グローアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者研修を終えた教職経験3年以内の教員(期採を含む)が対象。 退職教員がアドバンスティーチャーとして、若手教員に1回3時間、年4回以上、授業づくりや学級経営、生徒指導等について訪問指導し、教師としての資質や能力の向上を図る。 H27年度は、98%の対象者が「教師力が向上した」と回答。 <p>〔新規〕ミドルリーダー研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織において中堅となる30代半ば～40代までの教員を対象にした研修を新設することで、教員の資質向上に向けた体系的な研修体制を整える。 学力先進県で開催されるフォーラムや文部科学省の研究指定校が開催する公開研究会に参加する。 その後、フォーラムや研究指定校の関係者を講師に招聘し、理論と実践を効果的に結びつける。 | <h3>他の課における取組</h3> <p>教育センター機構改革</p>  <p>子どもと向き合う時間の確保(部活動外部指導者の導入)</p>  <p>放課後子供教室</p>  |
| <h3>学 校</h3>  | | |
| <h3>家 庭 ・ 地 域</h3>  | | |
| <p>〔継続〕学力向上フォローアップ事業</p> <p>※文科省「補習等のための指導員等派遣事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後や土曜日等を使った補習的な学習を通して、基礎的な学力の向上を図る。 退職教員や教職志望の学生等を指導員として、H26年度に4市町、H27年度に5市町に委託し、事業を展開した。 今年度は、当初の計画であった6市町村を8市町村に拡大する。 | <h3>家庭・地域との連携</h3> <p>〔新規〕家庭学習定着促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と保護者が家庭学習の重要性を共有し、取組を促すためリーフレット「家庭学習のすすめ」及び「家庭用掲示資料」を作成する。 公立小・中学校の全保護者に配布するとともに、地域の図書館等にも置くことで、地域への浸透も図る。 | <p>〔関連〕(学力向上の集い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化や保護者への働きかけ、学力を高めるポイントについて、周知や理解を深める。 H27年度は、5地域で開催し、約1,000名の保護者・地域住民・教職員の参加があった。 |

2 義務教育課における取組

義務教育課においては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、放課後や土曜日等を活用して、補習的な学習を行う「学力向上フォローアップ事業」や退職教員が各学校を訪問し若手教員の指導や相談に当たる「若手教員グロウアップ事業」等からなる「学力向上推進事業」を平成26年から進めてきました。

今年度は、これらの取組を更に充実させるとともに、新たに3つの新規の取組を加えた「学力向上総合対策事業」として、取り組めます。これは、校種や県教育委員会内の課・室の連携を重視した総合的な取組に移行するに当たり、各市町村教育委員会や教育事務所等共通理解の下、「チームやまなし」としての取組を重視し、成果が具体的な児童生徒の変化や成長として実感できるよう努めていきたいと考えています。

【学力向上アクティブ・ラーニング推進事業】

本県における学力向上に関する課題改善及びこれからの時代に求められる資質能力を育成する観点から、学習内容や指導方法を「アクティブ・ラーニング」の視点から改善するとともに、次期学習指導要領改訂に向けての全県的な対応を促し、確かな学力の向上と教育課程の充実を図ることを目的としております。

県内の小・中学校各2校を実践検証校として2年間指定し、アクティブ・ラーニングの具体的な授業内容や指導方法について研究を行い、文部科学省が示す「アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善」の具現化に向けた実践的な研究を行い、各校の研究會や研究授業の様子を定期的に地域の学校に向けて発信する予定です。

【ミドルリーダー研修事業】

本事業は、経験10年目以降（30代半ば）～管理職登用前（40代）の中堅教員を対象とした研修を行うことで、教員の資質向上に向けた系統的な研修体制を整え、本県の教育レベルの向上を図ることを目的としています。学力先進県で開催されるフォーラムや文部科学省の研究指定校が開催する公開研究会等に参加するとともに、その関係者を講師として招き、研修報告をもとに振り返りを行う等、理論と実践を結び付けた研修を行います。

【家庭学習定着促進事業】

学力向上に向けては、学校のみならず家庭や地域を含めた取組や支援が不可欠であり、その重要性についての周知が不足しているという状況があります。全国学力・学習状況調査においても、家庭学習の不足が経年的な課題となっており、家庭での取組の啓発が望まれます。そこで、家庭学習の在り方や意義など、家庭学習の重要性について、児童生徒と保護者が共に考え、取組を促すような視覚的効果の高いリーフレット「家庭学習のすすめ」と家庭用掲示資料を作成し、公立小中学校の全保護者に配付するとともに、地域の図書館等にも配布し、家庭学習の推進、充実を図っていきます。「家庭学習の手引き」等については、各学校や市町村教育委員会においても作成が進んでおり、今回作成する資料は、相互に補完的な役割を果たすものとなるよう、内容やデザインを工夫していく計画です。

社会生活にいきる言語活動推進事業

義務教育課

「言語活動の充実」による
「思考力・判断力・表現力等」の向上を!!

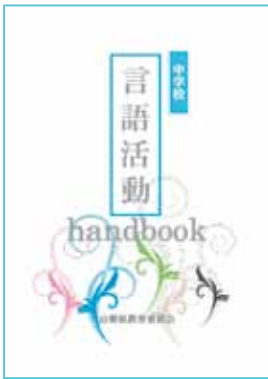
趣旨

義務教育課では平成26年度から「社会生活にいきる言語活動推進事業」に取り組んでいます。

この事業は、全教科等の中で言語活動を充実させ、授業改善を図ることを目指しています。そのために、児童生徒が常に手元に置き、必要に応じて適宜使用できる生徒のための手引き『言語活動ハンドブック（中学校版）』を平成27年度に、『言語活動ハンドブック（小学校版）』を平成26年に作成しました。



言語活動ハンドブック（中学校版）

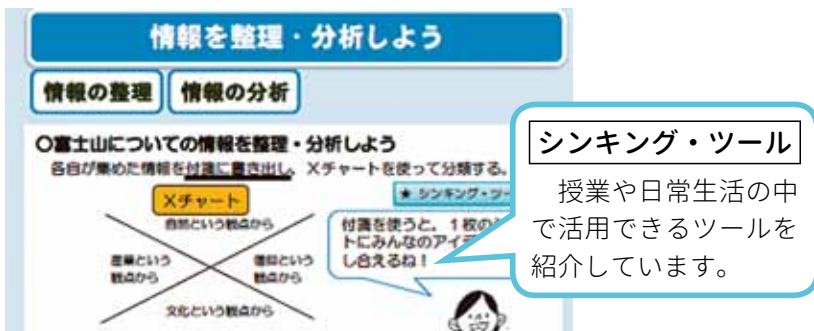


- ・生徒が各教科等の授業や学校生活の中で適宜使用し、言語活動を充実させ、読解力を高めるための手引きです。
- ・生徒が実際の授業等の中で行う、「記録」「報告」「説明」「討論」などの言語活動の際に必要な知識や技能、思考の手立て等について分かりやすく示しています。
- ・生徒が、全教科等で汎用的に使うことができ、様々な言語活動の充実につながるような内容・構成になっています。
- ・平成27年2月に、県内全ての公立中学校に配付しました。

(※本事業では「読解力」＝「テキストを解釈し、熟考・評価し、自らの考えを表現する力」と捉えています。)

12のヒント

言語活動を充実させるために、「情報の収集」から「伝え合う」までの活動の流れを軸にして、12のヒントを取り上げています。生徒自身が、「言語活動」を意識するとともに、自ら身に付けるための視点となります。



□ 県総合教育センターHPからPDFファイルをダウンロードできます。

山梨県義務教育課 国語力向上対策事業 HP <http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/>

Click!

「科学の甲子園全国大会」に出場して

～ 広げよう科学の輪 活かそう科学の英知 ～

県立吉田高等学校

1 はじめに

「科学の甲子園全国大会」の第4回大会（平成27年3月20～23日）、第5回大会（平成28年3月18～21日）に、吉田高校が山梨県代表として出場しました。茨城県つくば市で、全国の強豪校と科学の英知を競い合った様子を紹介します。

2 「科学の甲子園」とは？

「科学の甲子園」は、科学好きの高校生たちが、理科・数学・情報の知識と技能を競い合う競技会です。国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が、平成23年度より創設し、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指した大会です。また、平成25年度より、科学好きの中学生のための、「科学の甲子園ジュニア」も創設されています。

競技の内容は、高校生が8名を上限としてチームを組み、理科・数学・情報の各分野で筆記競技や実技競技を行い、総合成績を競います。

都道府県ごとに地方大会が開催され、選抜された1校が各県の代表として、3月の全国大会に出場します。地方大会の参加チーム数は年々増加しています。

3 全国大会の様子

大会には、筆記競技と3つの実技競技（第5回大会はもう1つ特別実技競技がありました）があります。筆記競技は6名、実技競技は3名の競技者で臨みます。各競技では、非常に難易度の高い課題・問題が設定されています。そのため、個々の長所・得意分野を活かし、短所・苦手分野を補うためのチームワークやコミュニケーション能力が必要です。

(1) 筆記競技

筆記競技は120分で、物理・化学・生物・地学・数学・情報の各分野2題、合計12題が出題されました。専門的な知識を既知として出題される問題や、単に知識を問われるだけではなく、生物だと思って解いていくと物理・化学の知識が必要になる問題があり、いかに知識を活用できるのか、仲間と協力出来るのかを問われる出題でした。出題者の、高校生のレベルを引き上げようとする意図が感じられました。

(2) 実技競技

● 第4回大会

実技競技①は、開催地のつくば市にちなんで、筑波山の湧水の硬度をキレート滴定により測定するという化学の実験問題でした。マイクロスケールの実験で、マイクロビュレットの組み立てから行い、組み立てた器具も採点されました。本校生徒は、120分の競技時間を十分に使い、考察を重ねていました。

実技競技②は、120分で8つの地学の課題の合格数を競う実験問題でした。地質分野2つ、気象分野4つ、天文分野2つから出題されました。地学は全国的にも履修者が少なく、本校の生徒も履修していない科目です。しかし、化石を取り出したり、マルデブルグの半球を作ったり、空気の重さを測定したりと、高校生に創意工夫を促し、地学の奥深さを感じさせる課題ばかりでした。また、課題に取り組む順番にも戦略性が求められました。



第4回大会 実技競技①
(硬度測定)



第4回大会 実技競技②
(土星リングの視直径計測)

実技競技③は、斜面を下ることで充電する充電カーと、その電力で登っていくロープウェイを作り、充電開始からロープウェイがゴールするまでの時間を合計するタイムレースでした。この競技は事前に競技内容が公開されていました。与えられた材料で大会までに試作・試行して本番に臨むことができるので、各チームで様々な工夫がみられました。特に優勝チームは、ギア比や重心位置の工夫により、驚異的な充電・走行スピードでした。

● 第5回大会

実技競技①は、DNAを抽出し、電気泳動により顕れるDNAバンドを撮影するという生物の実験問題でした。開催地の茨城県にちなんで試料には納豆が用意されており、納豆菌のDNAを抽出しました。DNA抽出の実験自体は、授業でもよく扱われるものですが、取り出したDNAを電気泳動し、厚紙で自作した暗箱を用いてDNAバンドを撮影するには、工夫が求められました。



第5回大会 実技競技①
(DNA抽出)

実技競技②は、膨らませたゴム風船が持つエネルギーを求めるといった物理の実験問題でした。「ポンプを用いて風船を膨らませるときの仕事」、「風船のゴム膜が伸ばされた状態で持つエネルギー」を計測し、実際に飛ばした風船の飛行距離との関係を考察しました。風船という身近な題材から、エネルギーについて考えさせられる競技でした。

実技競技③は、事前公開競技で、赤・緑・青の3色のLEDと光ファイバーを用いて、64文字のメッセージを送るタイムレースでした。文字情報を光情報に変換する送信機、光情報をカラーセンサーとマイコンボードを用いて文字情報に復元する受信機を75分間で製作しました。非常に難易度の高い課題で、全く送信できないチームや時間切れ・エラー15回で失格になってしまうチームが多数ありました。その中で、優勝チームは圧倒的な速さで64文字を送信し、会場を沸かせました。本校の生徒達も健闘し、会場の熱い応援を受けながら、何とか送信し終えることができました。各チームの送信機には、実に様々なアイデア・戦略がみられ、創意工夫の余地の大きい、とても面白い競技でした。

特別実技競技も事前公開競技で、コーヒーフィルターを用いてパラシュートを作り、滞空時間と着地点の正確性を競う競技でした。本校はパラシュートの概念から抜け出せませんでした。他の各チームは自由な発想でゆっくり正確に落下する物を作り上げていました。

4 終わりに

科学の甲子園全国大会に出場し、本校生徒も引率教員も大きな刺激を受けました。会場の高校生達は、教養が深く知識や雑学に富み、科学に対して並々な情熱を持っていました。本校生徒達も事前準備から一生懸命に取り組み、大会期間中も遅くまで対策を練るなど健闘しましたが、第4回大会19位、第5回大会27位という結果でした。全国大会で上位に進出するためには、事前公開競技での高得点が不可欠です。向上心と探究心を持ち、「これでいい」と思ったものから、さらに一段レベルを上げる必要があると痛感しました。また、他県では、学校内の教員間の連携はもとより、学校間の連携が図られている県もあり、これからの山梨県の指導体制も考えさせられました。

最後になりますが、地方大会や全国大会の運営に携わってくださった関係者の皆様に、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成

～ スーパーグローバルハイスクール S G H ～

県立甲府第一高等学校

1 概要

本校のS G Hは、後継者不足や人口減少など、本県の産業の活性化を阻害する社会的な課題を手がかりに、特色的な産業である「地場産業」「伝統工芸」「ワイン産業」「果樹産業」及び「観光産業」などの現状や、諸外国での取り組みを調査・研究し、それぞれの課題の解決を目指したプランニングを行い、その成果を各方面に提案することを目標としています。これらの取り組みを通して、グローバルな視野を養うとともに、論理的な思考力やコミュニケーション能力の育成を目指しています。

2 経緯

本校は、創立136年を迎えた山梨県随一の伝統校であり、強行遠足等の様々な伝統行事を通じて人間力を培い、多くの有為な人材を輩出してきました。平成3年度に「英語を深く学ぶことで、自分を取り巻く世界や自身を知る」ことを目的に専門教育学科である英語科が設置され、平成16年度からの3年間ではS E L H iの指定を受けています。近年何事に対しても真面目に取り組むが、自ら考えて行動する積極的な生徒が年々減少してきており、グローバル化が急激に進む現代社会で活躍できるか懸念される状況となっています。そこで、S G Hを導入することにより、高校生段階で世界の人々との関わりを持つ機会を多く設定し、将来世界を舞台として主体的に課題を解決し、地元である山梨や日本を起点としてグローバルな視点で社会に貢献し、活躍できる人材を育成することができると考えました。将来国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、本校ではS G Hでの活動が単に探究活動で終わるのではなく、大学・企業と連携した成果を発信し、グローバルな戦略として行政や大学、企業が実行できる提案を行うことを計画しています。



ブランドフォーラム（9月）

3 生徒に身につけさせたい力

a. 論理的な思考力・判断力

「異なる文化を超えて部分的な事柄を一つに組み合わせ、最善の方法を考え実行する能力」

b. 実践的なコミュニケーション能力

「海外での実地調査や討論等の場で正しく理解し、適切に表現する能力」

課題研究と語学能力の強化や異文化理解のための様々な取り組みを通して、グローバル社会でも物怖じせず活躍できる人材の育成を目標としています。

4 研究開発計画・評価

(1) 研究計画（年次計画）

| | |
|-----------------|--|
| 平成26年度 (1年次) | 「グローバルな視点を開く」 ・ 専門家の指導の下でのグローバルな課題設定 ・ グループによる課題研究の実践 ・ 国内での実地調査 ・ S G H中間発表会（甲府一高やまなしブランドサミット）の実施 |
|-----------------|--|

| | |
|---|---|
| 平成27年度 (2年次) | 「グローバルな視点で考える」 ・前年度の検証をもとに内容の改善 ・グループによる課題探究の実践 ・国外での実践 ・SGH公開発表会の実施 |
| 平成28年度 (3年次) | 「グローバルな視点で提案し、今後の提案先の実践につなげる」 ・前年度までの検証をもとに内容の改善 ・グループによる課題探究の実践 ・実行プラン発表会 ・行政や企業に対してグローバルな戦略の報告・実行 |
| 平成29年度 (4年次) ～ 平成30年度 (5年次) | 「SGH指定終了後に向けての準備」 ・前年までの検証をもとに内容の改善 ・SGH関連事業の維持に向けての取り組み |

(2) 評価の計画

- ① 山梨県が設置するSGH全般に関わる指導助言や事業評価を行う「SGH運営指導委員会」により指導を受ける。
- ② 本校においては、SGH全般に関わる運営を行う「SGH推進係」の中に「評価研究担当」をおく。
- ③ 評価計画

| | |
|--------|--|
| 課題研究 | ・大学との連携によるルーブリック開発等により定期的な検証を行う。 ・学校設定科目については、シラバスによる評価計画を作成する。 ・各種評価やアンケート集計はレーダーチャートで処理し、視覚的にわかりやすく提示する。 |
| 課題研究以外 | ・各種評価やアンケート集計はレーダーチャートで処理し、視覚的にわかりやすく提示する。 |

- ④ 全ての活動について検証し、その結果をもとに校内評価を行う。
- ⑤ その後、SGH運営指導委員会等の外部評価を受ける。

5 まとめ

平成26年4月、SGHの指定を受けてから、普通科（1クラス）英語科（1クラス）を中心にSGHの活動に取り組んできました。平成28年度の探究科への改編により、SGHを中心とする探究的な活動を一層強化し、充実させるため、探究科（2クラス）が核となって取り組むという方向性が確定しています。探究科の設置は、論理的思考力や課題解決能力を養う探究活動を本校の教育の柱として位置づけるものであり、本校の校是「Boys, be ambitious!」の下、「地域に貢献できるグローバル人材の育成」という目標に向かって前進するための大きな変革であると考えています。



「しなやかな心」の育成プロジェクト
アップ
家族で元気UP！

スポーツ健康課



なぜ、家族で元気アップ？

健康や体力はすべての活動の源です。

しかし、子どもの体力に関しては、運動をする子とそうでない子の二極化傾向や女子の運動離れが、依然深刻な問題です。

スポーツは、生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を養うなど人間形成に重要な役割を果たします。

体力・運動習慣等の調査結果から、幼年期の多様な運動経験や家族からの運動やスポーツの勧めが、体力向上や運動する機会の増加につながると報告されています。幼児期には運動する楽しさを十分に体験することが大切です。

そこで、家族で元気アップ！「元気な子ども」は「元気な家族」から！ まずは、家族みんなで外へ飛び出し、汗を流してみましよう！ キーワードは“家族で運動”です！

家族で元気アップは、遊びや運動をきっかけに家族のコミュニケーションが豊かになり、家族全員の健康や体力の向上も期待できます。

また、山梨県教育委員会が推進する「しなやかな心の育成」に関して、自他を敬愛する心や困難に直面しても粘り強く最後まであきらめない心の育成にもつながるでしょう。



博学連携の取組

－ 学校教育に考古博物館をご利用ください －

県立考古博物館

◆考古博物館では、学校教育現場との連携を図るプログラムを多数用意しています。

1 考古博物館と公園内の古墳を案内します

校外学習、社会科見学などで当館をご利用の際には、教育課程に合わせて古墳や館内の案内を行っています。

また、古代の生活を体験するメニューも用意されており、「火起こし体験」や古代のアクセサリー「勾玉作り」（別途材料費必要）などが行えます。

2 古代衣装のレプリカを貸し出しています

弥生・古墳・飛鳥時代の衣装を再現した古代衣装レプリカの貸出を行っています。社会科の時間や総合学習の時間に自分で着付けをし、試着して古代の生活を体感することができます。



▲職場体験の様子(展示室で解説)

3 職場体験、インターンシップを受け入れています

考古博物館では県埋蔵文化財センターと共同で職場体験、インターンシップの受け入れを行っています。イベントの手伝いや収蔵品の展示作業など学芸員の仕事を幅広く学びます。実習時期・期間・時間などは考古博物館の行事日程を考慮しながら、可能な限りご要望にお応えしています。

4 「わたしたちの研究室」の作品を募集しています



▲応募作品の展示の様子

総合学習の時間やクラス・学年での社会科の研究、夏休みの自由研究などで学んだ成果を発表する機会としてコンクール「わたしたちの研究室」を実施しています。

応募いただいた作品の中でも特に優れた作品を表彰するほか、賞の有無にかかわらず全ての作品を当館の展示室にて公開しています（※期間限定）。

5 先生方の研修でご利用ください

考古博物館附属施設の風土記の丘研修センターでは、講堂、研修室の使用も可能です。お時間のあるときに見学にお越しく下さい。

また、利用の申し込みは2ヶ月前から受け付けています。予め空き状況等をご確認のうえ、先生方の研修会、勉強会等で積極的にご利用ください。

問い合わせ先： 県立考古博物館 学芸課
TEL 055-266-3881 TEL 055-266-5286
FAX 055-266-3882 FAX 055-266-5287

関連HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

博学連携の取組

～ 文学館の取組～

県立文学館

- 学習指導要領に、地域博物館の積極的な利用が明記されました。博学連携の期待が高まる中、文学館では館の資料をより活用しやすい形で各学校へ提供したいと取り組んでいます。文学館から博学連携のいろいろな形を提案していきます。

1 校内文学館プロジェクト

新たな博学連携の取組「校内文学館プロジェクト」が始まりました。小学校から高校を対象に、学校の要請に応じて、調べ学習など様々な教育活動を通年で支援する出前授業です。昨年度は六郷小学校と校内文学館プロジェクトに取り組みました。その取組を紹介します。

まず、学校と文学館とで取組の計画について相談します。次に、六郷小学校の6年生は宮沢賢治の調べ学習に取り組むことを決定しました。そして、7月には校外学習として、文学館の特設展・常設展の見学を実施しました。

2学期になり、国語の「やまなし」の学習に取り組む中で、宮沢賢治の並行読書を開始しました。調べ学習として、「賢治の生涯」「やまなし」「イーハトーブ」「グスコブドリの伝記」など6つのテーマを設定しました。

1回目の出前授業では、文学館の展示で使ったキャプションや解説のパネルなどを使い、人に伝えることや解説の工夫、キャプション・解説パネル役割など展示の方法について学習しました。2回目の出前授業では、グループの調べ学習について文学館の担当者からアドバイスを行いました。3回目の出前授業では、文学館の学芸員が展示パネルの作り方や展示方法について指導しました。4回目の出前授業では、実際に展示しながら見せるためのアドバイスをしました。今回の調べ学習の成果を、2月9日～24日まで校内に展示室を設けて発表しました。「やまなし」に出てくる幻灯の模型を作って写し出される作品の世界観を表現した展示や「風の又三郎」の風について表現した展示など子どもたちの趣向を凝らした展示が行われていました。また、来場者に見やすいように展示パネルの高さを合わせるといった展示を見せる工夫もされていました。



人に伝えるという他者の立場を意識することにより、子どもたちは学習内容をさらに深く理解することになったと考えられます。これからも、学校の要請に応じてさらに多様な学習を提案していきたいと思えます。

2 総合教育センターとの連携

昨年度に引き続き2回目となる総合教育センターとの連携事業を実施しました。8月7日には当館館長を講師として「文学館の魅力～短歌の指導と評価研修会～」を行いました。館長による前半の講座のあと、書庫や展示を見学しながら実際に参加者に短歌を作ってもらい、提出された短歌をもとに講座の後半には「評価」の仕方を学びました。参加者からは「短歌や俳句の指導をする際に、どんなところを見て評価すればよいかわかった」という感想が出るなど、とても好評を得ました。

また、11月13日には初任者の先生方に文学館を知ってもらうための研修も実施しました。展示室や書庫の見学などを通して、文学館の利用法や博学連携について考えるグループ演習も行われました。参加者からは「文学館の所蔵資料の数に驚きました。特に芥川関連の資料は日本のトップクラスだと思います。このような貴重な資料が身近にあることは子どもに大変意義のあることです。また、それを実際に目にすることができる、本物を見ることができることが文学館で味わえる貴重な体験になると思います。この体験を通して文学に興味を持ってもらえるように文学館に行く機会を増やすことが大事なことだと感じました」という感想をいただきました。

さらに、企画展・特設展の時期に実施している「教師のための学習会」など、様々な機会を通して、これからの文学館の利用の仕方について考えていただき、児童・生徒だけでなく先生方との連携も深めていきたいと考えています。

3 出前授業もしています

6月13日(土)に丹波小学校で出前授業を行いました。1時間目は、芥川龍之介について学びました。当館のジュニアガイドブックや芥川の写真などを使い、どんな人なのか、



どんな作品を書いたのかを学習して、児童向け作品「杜子春」のアニメも鑑賞しました。2時間目は、芥川と丹波との関わりについて学びました。16歳の芥川龍之介が、友人の西川英次郎と旅をした「丹波山・上諏訪・浅間行」の【明治41年夏休み「日誌」】を使い、日記の該当部分を全員で音読しました。言葉や漢字の難しいところを館の職員による解説で補いながら、当時の人々の旅の様子や丹波

の自然豊かな風景などを想像しながら読みました。芥川たちは、丹波山の「野村」という宿に一泊したことなどもわかりました。最後に文学館にある「羅生門」の草稿やカップの絵などの資料を紹介しました。

☆これからも文学館をよろしくお願ひします。

◆問い合わせ先

山梨県立文学館 / 電話：055-235-8080 / FAX：055-226-9032

学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して

総合教育センター 研修指導部

山梨県総合教育センターでは、「学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して」をキーワードに、初任者・若手・中堅・ベテランすべての教職員に必要とされるキャリアが積めるような、ライフステージに合った研修会を企画しました。企画を行うに当たっては以下の4点に留意しました。

- 教職員の資質能力の向上に資する質の高い研修会を企画・実施する。
- 平素の教育活動に役立ち、指導に活用できる講座内容の構築に努める。
- 学校力・教師力の向上のため、校内研修・校内研究等を支援する。
- 研修会に「学校組織マネジメント」の視点を取り入れ、受講者に「当事者意識」を喚起することにより、研修成果の活用率の向上に努める。

このような認識のもと、『平成28年度研修体系図』(下図)に示すように、様々な分野における研修会を企画しました。

平成28年度 山梨県総合教育センター研修体系図

| | | | |
|---|------------|---|---|
| 総合教育センター研修 | 基本研修(必修研修) | 1 教育経営研修 | ① 管理職研修 (2) 新校長, 新教頭 |
| | | 2 経年研修 | ② 主任等研修 (16) 新主幹教諭, 新教務主任, 生徒指導主事・主任, 中・高・特(仲高) 新学年主任・新学部主事, 新研究主任, 道徳教育推進教師, 新特別支援学級担当, 新特別支援教育コーディネーター, 新防災教育リーダー, 県立学校ネットワーク担当者及びPCリーダー, 理科・視覚実習助手講師, 小学校経験3年目教員理科指導力向上, 新期間採用教員, 小学校授業力アップ実践, 中学校授業力アップ実践, 医療的ケアスキルアップ |
| | | | ③ 初任者研修 (1) |
| | | | ④ 五年経験者研修 (1) |
| | | | ⑤ 十年経験者研修 (1) |
| | | | ⑥ 中堅教員研修 (1) |
| | 専門研修(希望研修) | 3 教科等研修 (55) 注: 教科・領域等を示しています。 国語, 社会, 地歴, 公民, 算数・数学, 理科, 生活, 音楽, 図画工作・美術, 保健体育, 技術・家庭, 外国語活動 英語, 情報, 産業教育, 特別活動, 総合的な学習の時間, 養護教諭関係, 道徳 | |
| | | 4 教育課題研修 (15) 環境教育, 学校図書館教育, 新聞の教育利用, 食育, 校内研究の進め方, 校内研究の活性化I・II, 校内研究のまとめ方, 地震防災対策, 期間採用教員, カリキュラム・マネジメント, キャリア教育, 特別I・II | |
| | | 5 教育相談研修 (9) 教育相談の基礎を理論と事例を通して学ぶ, 学校で生かす教育相談の実技と対応を学ぶ, ブリーフセラピー基礎, ブリーフセラピー応用, 不登校問題に関する理論と実際, いじめ予防と解決に関する, アドラー心理学に基づく学級づくり, ストレスマネジメント, 事例検討を通して実践に役立てる | |
| 6 特別支援教育研修 (5) 特別支援教育専門, 心理検査法, 特別支援学級の授業づくり, 特別支援学校の授業づくり, 通常の学級における特別支援教育 | | | |
| 7 情報教育研修 (19) 情報セキュリティ・ネットトラブル対応, 初めてのタブレット体験, 授業に役立つタブレット活用, タブレットを生かした授業づくり, ICT機器活用基礎, ワゴンプロジェクター活用, はじめてのホームページ作成, プレゼンテーション基礎(PowerPoint2010), 校務処理のためのExcel2010活用, 静止画像の加工と編集のためのデジビックス, ビデオ教材作成のためのPremiere Elements活用, デジタル素材作成のためのフリーソフト活用, マクロ基礎(Excel 2010), ネットワーク基礎, サーバ構築(Windows)基礎, 県立学校PCリーダーフォローアップ, タブレット操作に関する基礎I・II | | | |
| 8 外部共催研修 (10) 注: 外部公的機関との共催研修です。 理科実験工作, 身近な自然の指導法, 体験で学ぶ火山, 環境とものづくり, 国際協力セミナー・国際教育教材体験, 博物館を活用した授業づくり, 「見る・つくる」考古博物館利用, 古代を体験! 授業づくり, 文学館の魅力活用～能楽を知ろう～伝統的な言語文化の指導, 学校現場における男女共同参画教育 | | | |
| 9 免許状更新講習 (3) 注: 免許状更新講習対象の研修会です。 食育推進のための指導力向上I・II・III | | | |

計138研修

山梨県総合教育センターは、今年度も学校現場のニーズに寄り添った教職員の専門性や資質能力の向上に役立つ、より質の高い研修の提供ができるよう努めてまいります。

多くの先生方に研修会への御参加をいただけますようよろしくお願いいたします。

「気づき、考え、実行する」力を育てる ～ユニバーサルデザインの学びやすい授業づくりを通して～

甲府市立伊勢小学校

本校では、昨年度から日本赤十字社山梨県支部より2年間の研究指定を受け、青少年赤十字活動の「気づき、考え、実行する」という態度目標の要素を授業に取り入れながら、能動的に学ぶ児童の育成をとおして学力向上に取り組んでいます。これからのアクティブ・ラーニングには、児童自身が「気づき力」「考える力」「実践する力」を高める必要があります。本校では、児童の能動的な学びを支援するひとつの方策として、誰もが学びやすく、誰もがより理解しやすい、ユニバーサルデザインの指導の視点を取り入れた指導方法や指導技術の工夫、学習環境の検討などに取組みました。具体的には、教材や教具の視覚化やタブレット端末・実物投影機などのICTの活用、個やグループなど学習形態の工夫、また、学習過程や課題提示の工夫などの児童にもわかる授業実践を目指して取組みました。昨年11月に行われた公開研究会では、多くの参観者に本校の取組に対する多大な興味とご理解をいただきました。今後も児童の気づきを大切に、どの児童にも分かる、どの児童も考えて実行できる取組みをしていきたいと考えています。

ユニバーサルデザインの授業づくりの工夫

教材・
教具の工夫

具体物・半具体物
の提示
ICTの活用による
視覚化

学習過程の工夫

「気づき」→
問題把握
「考え」→
自力解決
「実行する」→
学び合い

課題設定の工夫

興味・関心をひく
課題提示・課題の
焦点化

学習形態の工夫

個、ペア、小集団、
一斉学習の
組み合わせ



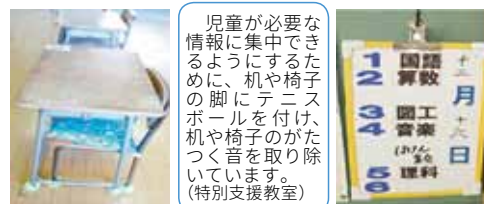
思考・表現の
型の活用

児童の思考や学
び合いをサポート
する型の提示

○教室環境・教室掲示のユニバーサルデザイン



学習への集中力を保つため、黒板周りや前面掲示についてはすっきりさせ、黒板横の本棚も落ち着いた色のカーテンで覆うなどして、視覚的刺激を軽減しています。



児童が必要な情報に集中できるようにするために、机や椅子の脚にテニスボールを付け、机や椅子のがたつく音を取り除いています。(特別支援教室)

児童が見通しをもって学習に取り組めるように、1日一ページのスケジュールを目に見えて示しています。変更の場合も目で確認できます。

「自ら学び心豊かなたくましい生徒の育成」をめざして

— 新「身延中学校」誕生！ 開校初年度の取り組み —

身延町立身延中学校

この3月、身延町内の4中学校（久那土中・下部中・中富中・身延中）が閉校し、新たな身延中学校が4月に開校しました。生徒数196名・職員数36名でのスタートとなり、生徒も職員も新たな学校づくり、新たな自分づくりを意識しながら、学校教育目標の「自ら学び心豊かなたくましい生徒の育成」の具現化に向け、その第一歩を踏み出したところです。また、“チーム United 身延中” “融和” を今年度の合い言葉とし、生徒一人一人が「自ら学ぶ生徒」「思いやりのある生徒」「たくましい生徒」「進んで働く生徒」となるよう、職員がチームとして機能する学校を目標に教育活動を展開しています。

本校の開校に対する保護者や町民のみならずの期待も大きく、町当局・町教育委員会の配慮により、年度内に生徒一人一人にタブレット端末が貸与されたり、英語教育の充実のため2名のALTが配置されたり、豊かな教育内容の創造のための環境を整えていただいています。また、今年度は、3年生が70名ちよどの2クラスとなっていることから、県の加配や町単講師の配置により、数学・英語・理科の3教科においては、3クラス展開を行うこととしました。

以上のように、子供たちの成長を第一とし新生中学校としての取組みを始めたばかりですが、今後、校内研究を柱としながら、「学力向上」「豊かな心の育成」「体力・健康づくり」の3つのプロジェクトを推進していく予定です。



平成28年4月8日開校式の後に実施された第1回入学式「在校生による歓迎の合唱」

美し、やまなし、パワー！ 山梨の女性アーティストたち

県立美術館

明治時代の南画家・野口小蘂や、大正時代に女性初の二科会会友となった埴原久和代、戦後に県内の女性画家たちを牽引した佐野智子、新しいジャンルでは『エースをねらえ！』のマンガ家・山本鈴美香など、山梨県にゆかりのある様々な女性アーティストたちが県内外で活動をしてきました。

制作活動で身を立てることが極めて難しかった戦前の女性たち、男女平等が謳われ、家庭の切り盛りをしながら社会進出に挑戦し制作を続けた戦後の女性たち、生き方が多様化するなか時代に適した表現を模索する現代の女性たちなど、女性アーティストの歴史は時代背景や社会通念とも深い関係があります。

本展では、山梨県にゆかりのある明治から現代に至るまでの約30名の女性アーティストたちに焦点を当てます。油彩や日本画など既に確立したジャンルの他にも、インスタレーション、マンガ、デザインといった近年極めて重要になっている表現による作品も展示します。山梨県立美術館では、30数年にわたる歩みのなかで、郷土の芸術家たちを多数紹介してきましたが、女性アーティストたちの歴史と作品をテーマにした展覧会は初の開催となります。パワーと個性に満ちた約80点の作品をお楽しみください。



佐野智子《自画像》1980年代
油彩・麻布、葎崎大村美術館蔵



松田百合子《In her shoes》
2009年、陶、個人蔵



丸山純子《無音花畑・NYK》
2007年、インスタレーション

美し、やまなし、パワー！ 山梨の女性アーティストたち

日時：平成28年6月25日(土)～8月21日(日)

場所：山梨県立美術館 特別展示室

観覧料：一般1000(840)円・大学生500(420)円

()内は20名以上の団体料金、前売料金、県内宿泊者割引料金

高校生以下の児童・生徒は無料 県内在住65歳以上の方は無料

障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方1名が無料

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

特設展「宮沢賢治 保坂嘉内への手紙」

会期 7月9日(土)～8月28日(日)

県立文学館

1 宮沢賢治と保坂嘉内

詩、童話に独自の世界を切り開いた宮沢賢治（1896～1933 岩手県生まれ）。無二の親友の保坂嘉内（^{かない}1896～1937 蕪崎市生まれ）との交友を表す73通の手紙が、平成27年当館に寄託されました。寄託後、初の展覧会として全73通を公開し、賢治と嘉内の友情に迫ります。

1915（大正4）年、賢治は盛岡高等農林学校農学科に進学、1年遅れて嘉内が入学し、ふたりは寮の同室となり、文学や哲学、宗教を語り合うようになりました。そして、友人たちと文芸誌「アザリア」を創刊し、短歌や随想を発表しますが、1918（大正7）年、嘉内は学校から除名処分を受けてしまいます。これは「アザリア」に発表した「社会と自分」という文章が原因と推測されています。さらに同年、嘉内の母が亡くなり、二重の衝撃を受ける嘉内に、賢治は手紙を送り力づけました。

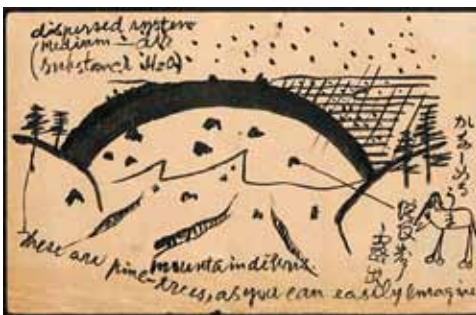


「アザリア」の仲間と
1917年
後列左より嘉内、賢治

2 展覧会のみどころ

本展では、賢治が嘉内に宛てた73通の手紙を中心に、ふたりの生涯と友情を紹介します。

賢治が盛岡高等農林学校3年生の夏休みに嘉内へ送った葉書（写真）には、岩手の種山ヶ原周^{たねやまがはら}辺のスケッチに、大気や動植物、蛇紋岩の露出の様子などが、英語や化学記号とともに書き込まれています。



賢治 嘉内宛葉書
1917年9月2日消印

また、1921（大正10）年12月に書かれたと推定される原稿用紙1枚の手紙には、賢治がこの月から教師として勤めた稗貫農学校^{ひえぬき}での様子や、雑誌「愛国婦人」に童話「雪渡り」が掲載されたことなどが記されています。

1916（大正5）年から1925（大正14）年までの間に出された73通の手紙には、親友として嘉内に心を寄せ、ともに理想を追い求めていこうと願った賢治の心情が表れ、ふたりの親交と青春の軌跡をたどることができます。嘉内のご遺族が大切に保管してきた貴重な手紙を、この機会にぜひご覧ください。

特設展「宮沢賢治 保坂嘉内への手紙」

会期：平成28年7月9日(土)～8月28日(日)

休館日：7月11日(月)、25日(月)、8月1日(月)、22日(月)

場所：山梨県立文学館 展示室C

観覧料：常設展観覧料 一般320円(250円) 大学生210円(170円)

* 高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

関連HP <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

シンボル展

「よみがえる、ふるさとの宝たち - 3.11 被災資料の再生 -」

県立博物館

「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」と、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市では被災した博物館資料の応急処置が日々進められています。文化財レスキュー事業や地域の資料を未来へ伝える大切さについて、よみがえった資料とともにご紹介します。



資料のレスキューの様子

1. ガレキの中から宝を救え

博物館資料は泥とガレキの中に散乱した状態でしたが、職員の執念によって一つ一つ探し出されました。博物館関係者だけでなく、自衛隊や市民の方々の協力も得ながら、46万件の資料がレスキューされました。



2. よみがえる、ふるさとの宝たち

様々な分野・素材の資料が大量の海水によって被害を受けたのは、世界的にみても初めての経験でした。被災した資料は、泥や塩分の影響でそのままの状態ではどんどん劣化が進んでしまいます。ふるさとの宝を救うため、試行錯誤で、除泥・除菌・脱塩・脱臭の処置方法（安定化処理）が開発され、5年間で17万件の資料の処置が行われました。



被災した昆虫標本（上）
修復された昆虫標本（下）
陸前高田市立博物館蔵

3. 陸前高田のアイデンティティー

博物館資料は地域の歴史や文化の証で、資料一つ一つに、地域や地域の人々との物語があります。ふるさとの宝の再生は、多くを失った人々にとって心のよりどころとなりつつあります。

※写真「おらほのアカショウビン」 陸前高田市立博物館蔵

小学校に激突したアカショウビンは、子どもたちによって手厚く葬られましたが、博物館に残した方がよいということで剥製にされました。「おらほの（僕たちの）アカショウビン」として親しまれ、子どもたちがたびたび博物館に会いに来ていたそうです。



シンボル展 「よみがえる、ふるさとの宝たち - 3.11 被災資料の再生 -」

会 期：平成28年6月4日(土)～7月4日(月) 毎週火曜日は休館

観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます。

一般510円、大学生210円、小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>
イベント情報も掲載しております。

Click!

企画展「医は仁術」 シンボル展「近世甲州医人伝」

県立博物館

「^{じんじゆつ}医は仁術」という言葉をご存じでしょうか。人の命を左右する医者の術は、他者に対する「仁」、つまり愛情や思いやりの心によって支えられているという意味です。夏の県立博物館はこの「医は仁術」がテーマ。江戸時代以降、人々の命を救うため、知識と技術を磨いた医師たちや、最先端の医療技術をご紹介します。

1 企画展「医は仁術」

現在、世界最先端といわれている日本の医学・医療。その原点は、江戸時代にありました。当時オランダを経由して伝えられたヨーロッパの先進医術を身につけた蘭方医はもとより、中国由来の日本の伝統的な医術を担った漢方医とが、人体の構造の解明に取り組んだのが江戸時代、18世紀後半だったのです。

本展では、中国からきた漢方と、西洋からきた蘭学とが、日本においていかに融合し、人々を傷病の恐怖から救ってきたのか、さらに現代の最新医療の中にみえる「医は仁術」の精神についてもご紹介します。



薬看板『ウルユス』
(和田コレクション、国立科学博物館蔵)

2 シンボル展「近世甲州医人伝」

江戸時代、甲斐国にも、人々の命を救うため、自らの持てる力を尽くした医師たちがいました。戦国時代以来、甲斐国に根付いていた伝統医術は、やがてオランダ語学習に基礎づけられた先進知識と融合し、より幅広い人々の命を救う力になりました。また、医師たちは諸国を遊学し、さらに自らの得た知識や技術を後進に伝え、医師たちによる「知のネットワーク」は全国に広がっていきました。特に種痘しゆとうの普及にあたっては、この医師たちの絆が大いに力を発揮し、多くの人々を天然痘の恐怖から救ったのです。そのような近世甲州の医術を担った人々を、多様な資料からご紹介します。



村松岳佑種痘道具
(村松家資料、当館蔵)

医療を身近に感じられる関連イベントも多数企画しております。詳細はホームページをご覧ください。どうか、県立博物館までお問い合わせ下さい。

企画展「医は仁術」・シンボル展「近世甲州医人伝」

会 期：平成28年7月16日(土)～9月5日(月)

入場料等：一般1,000円、大学生500円

小・中・高校・特別支援学校の生徒は無料です。

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!

山梨近代人物館

学術文化財課

第3回展示「近代山梨を築いた人々」

山梨近代人物館では、4月から第3回展示として「近代山梨を築いた人々」と題して、現在の私たちのくらしの基礎を築いた人々のうち、9名の人物に焦点をあてて展示しております。今回は、その展示の一部をご紹介します。

赤地に富士山形の切り抜きをあしらった意匠の扉絵。これは明治初期の山梨で作られ、使われた小学校の教科書です。このような教科書を出版したのが、山梨最初の新聞である「峡中新聞」（現在の山梨日日新聞）を発行したことで知られる内藤伝右衛門（現在の山梨市出身）です。内藤はまだ教科書も普及していなかった当時の山梨で、さまざまな書籍を出版し、山梨の人々に新たな時代の知識を伝えることに貢献しました。

山梨県には「塚本山」（山梨市三富上釜口）という山があります。「塚本」とは山林が荒廃し、明治40・43年の大きな水害を被った山梨県へ、植林費用1万円（現在の価値で数億円）の寄付をした江州商人・塚本定右衛門の名前に由来します。塚本家は近江出身ですが、初代が甲府柳町で「紅屋」を創業し、商家としての基礎を築いた、山梨にゆかりの深い商人でした。明治44年3月11日に、明治天皇から山梨県へ御料林が御下賜されたことに感激した塚本は、自らもゆかりの地である山梨の復興のために、莫大な私財をなげうったのです。塚本山に建てられた記念碑は、山梨を代表する美しい山林に成長した塚本山を今でも見つめています。

「近代」という時代は、一面的には新しいものが古いものを駆逐していく過程と言えます。山梨が「近代化」という新たな装いを身に着けるなか、顧みられなくなった古いものに価値を見出したのが、「甲州文庫」の蒐集で知られる功刀亀内です。功刀は自ら「甲府で最初にオートバイを買った」と称する、いわゆるモダン・ボーイでした。ところが、若尾財閥の3代目謹之助が主宰した山梨県志編纂会の資料調査に巡りあったことが転機となり、散逸の危機にある古文書など「古いもの」の蒐集が、功刀の「病みつぎ」になったのです。功刀の「病」は膏肓に入り、そのコレクションは約2万点に達し、「甲州文庫」と命名されました。「甲州文庫」は功刀の郷里（南アルプス市）に疎開して戦災を免れ、戦後に山梨県へ譲渡されました。こうして「甲州文庫」は、甲府空襲などによって資料の多くを失った山梨の郷土研究界にとって、欠かせない資料となりました。功刀の「新しいもの」への好奇心は、「古いもの」のなかにある貴重さにも注がれ、山梨にとって掛け替えのない遺産を残すことになったのです（現在は県立博物館に収蔵）。

そのほか今回の展示では、藤村紫朗、土屋龍憲、富岡敬明、ポール・ラッシュ、杉浦健造、内藤満寿についてご紹介しております。ぜひ、山梨近代人物館で山梨の人々が「近代」という時代に対して、どのように向き合ってきたのかを感じ取って頂ければと思います。



小学校を表す富士山形の旗マークの「小学物理書」（山梨県立博物館蔵）



現在の「塚本山碑」（山梨県森林環境部提供）



中央のハンチング帽姿の青年が功刀亀内（山梨県立博物館蔵）

山梨の文化財

学術文化財課

県指定史跡 ^{まんじゅもりこふん} 万寿森古墳

平成28年2月22日指定

万寿森古墳は、甲府市湯村三丁目及び甲府市大和町に所在する古墳時代後期の^{えんぶん}円墳（円形の古墳）で、甲府盆地北側の湯村山南端の山裾にあたる標高約290mの南向き緩斜面上に立地しています。

本古墳は、江戸時代に^{せきしつ}石室が火薬庫として利用されていた記録が残されており、戦後にはホテルの倉庫として利用されたため、石室の入口には鉄製の扉が取り付けられ、床面はコンクリートで固められています。残存状態は良好です。

本古墳の^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室（石室長13.2m、高さ3.3m）は、県指定史跡である^{うぼづかこふん}笛吹市御坂町の姥塚古墳（石室長：17.54m）、甲府市千塚の^{かんなづか}加牟那塚古墳（石室長：



万寿森古墳

16.75m) に次いで、県内第3位の規模を誇ります。また、石室の石材が小振りであることなど初期の横穴式石室の特徴を有することから、姥塚古墳や加牟那塚古墳に先立つ6世紀第2四半期ごろに築造されたものと推定され、本古墳が本県の古墳時代後期における横穴式石室の導入状況を解明していく上で重要な古墳であるとされています。

さらに、本県では古墳時代後期の6世紀第2四半期から第3四半期にかけて、大形の横穴式石室を有する万寿森古墳や加牟那塚古墳が甲府盆地北西部に、姥塚古墳が甲府盆地東部に相次いで築造され、甲府盆地内における二大勢力を形成する



万寿森古墳 石室内部

ようになることが知られています。この二大勢力は古墳時代終末まで存続し、奈良時代以降の郡の分割にも大きな影響を与えたと考えられ、^{しゅちようそう}首長層の勢力分布を解明する上でも欠くことのできない古墳であることを物語っています。

訪問型特定保健指導を実施しています

福利給与課

公立学校共済組合山梨支部では、本部で一括契約を行っている外部委託業者「SOMPO リスケアマネジメント(株)」による訪問型特定保健指導を実施しています。(平成28年度委託業者を同社に変更しました。)

特定健康診査は、40歳以上を対象に、定期健康診断や人間ドックの受診時にメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目し、生活習慣病と言われる糖尿病や高血圧症、脂質異常症のリスクの有無を検査しており、その結果をもとに、生活習慣の改善が必要と判断された方に対し、保健師・管理栄養士が、対象者の所属所へ訪問し、特定保健指導(積極的支援・動機付け支援)を行います。これまで多忙で保健指導を受けることができなかった方も、所属所で気軽に受けられますので、積極的にご利用ください。

| | 積極的支援 | 動機付け支援 | 参考 |
|----------------------|--|--------|---------------------------------|
| | SOMPO リスケアマネジメント(株)に委託実施 | | 特定保健指導以外の巡回相談 |
| 小・中学校 市立高校 大学等 | ○ 小中学校：全地域 ○ 市立高校：甲府商業高等学校・甲陵高等学校 ○ 大学等：山梨県立大学・都留文科大学・大月短期大学 | | 県教職員互助組合が、巡回指導・健康相談を実施(小・中学校のみ) |
| 県立・事務局 | 県立学校・事務局全体 | | 福利給与課が、巡回健康相談を実施 |

特定保健指導についての詳細は、厚生労働省ホームページ「e-ヘルスネット」をご参照ください。

<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/metabolic/m-04-002.html>

Click!

「しなやかな心」の育成プロジェクト ^{アップ} 家族で元気UP！教室

スポーツ健康課

- 【期 日】 平成28年10月15日(土)
- 【時 間】 9:30~11:40
- 【場 所】 山梨県立大学飯田キャンパス体育館(甲府市飯田5-11-1)
- 【対 象】 幼児や小学校低学年(3年生以下)のお子さんとその保護者
- 【持ち物等】 室内シューズをお持ちの上、運動ができる服装で御参加ください。
- 【申込方法】 スポーツ健康課のホームページから開催案内を御確認の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。



山梨県スポーツ健康課

検索

「元気な子ども」は「元気な家族」から！ キーワードは「家族で運動」です！



講師に、山梨県立大学人間福祉学部 人間形成学科学科長 高野牧子先生をお招きし、親子で楽しく運動できる「遊び」をたくさん紹介していただき、実際に体を動かします。お友達をお誘いの上、奮って参加ください。



【問い合わせ先】

教育庁スポーツ健康課
 学校体育担当 金井哲也
 Tel 055-223-1783
 Fax 055-223-1786

「第71回国民体育大会関東ブロック大会」いよいよ開幕！！

～ 32競技に6,200名の選手団が参加～

スポーツ健康課

◆「大会概要」

「東日本大震災復興の架け橋 第71回国民体育大会関東ブロック大会」が、6月5日（日）のカヌー競技（スラローム・ワイルドウォーター）を皮切りに開幕しました。本県では、平成20年の63回大会以来8年ぶりの開催となり、「2016希望郷いわて国体」への出場をかけた重要な大会となります。

この岩手国体から、これまで国体で未実施の女子ラグビーなど、オリンピック競技種目が新たに加わり、全32競技で本大会への出場をかけた熱戦が繰り広げられます。

競技日程・会場については、下表のとおりです。中心会期を8月19日（金）～21日（日）とし、県内10市2町の会場で開催されます。

監督・選手団は、約6,200名、関係者を合わせると約10,000名にのぼる、県外からお越しの皆様へ、本県のよさ、すばらしさを知っていただく、絶好の機会でもあります。

大会の成功に向け、是非とも県民の皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

◆「大会日程・会場一覧」

第71回国民体育大会関東ブロック大会競技日程・会場一覧

| No. | 競技 | 競技日程 | 会場地 | 競技会場 |
|-----|------------|-----------------|-------------------------|-----------------------------|
| 1 | 水泳 | 水球 | 7月30日(土)・31日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園水泳場 |
| | | シンクロ | 7月18日(月) | 甲府市 小瀬スポーツ公園水泳場 |
| 2 | サッカー | 成年男子 | 8月13日(土)・14日(日) | 昭和田 押原公園(天然芝グラウンド・人工芝グラウンド) |
| | | 女子 | | 韮崎市 韮崎中央公園(陸上競技場・芝生広場) |
| | | 少年男子 | 8月17日(水)・18日(木) | 昭和田 押原公園(天然芝グラウンド・人工芝グラウンド) |
| 3 | テニス | 8月6日(土)・7日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園テニス場 | |
| 4 | ボート | 7月15日(金)・16日(土) | 富士河口湖町 河口湖漕艇場 | |
| 5 | ホッケー | 成年男子 | 8月20日(土)～22日(月) | 南アルプス市 県立白根高等学校第二運動場 |
| | | 成年女子 | | 南アルプス市 白根中央公園ホッケー場 |
| | | 少年男女 | | 甲府市 山梨学院ホッケースタジアム |
| 6 | ボクシング | 8月19日(金)～21日(日) | 甲府市 緑が丘スポーツ公園体育館 | |
| 7 | バレーボール | 成年男子 | 8月27日(土) | 甲府市 甲府市総合市民会館 |
| | | 成年女子 | | 甲府市 小瀬スポーツ公園体育館 |
| | | 少年男子 | 8月27日(土)・28日(日) | 甲府市 甲府市総合市民会館 |
| 8 | 体操 | 競技 | 8月27日(土)・28日(日) | 甲府市 緑が丘スポーツ公園体育館 |
| | | 新体操 | 8月26日(金)・27日(土) | |
| | | | | |
| 9 | バスケットボール | 8月20日(土)・21日(日) | 富士吉田市 富士北麓公園体育館 | |
| 10 | ウエイトリフティング | 8月19日(金)・20日(土) | 山梨市 県立日川高等学校ウエイトリフティング場 | |
| 11 | ハンドボール | 成年男子 | 8月19日(金)～21日(日) | 山梨市 県立日川高等学校体育館 |
| | | 成年女子 | | 甲州市 甲州市立塩山中学校体育館 |
| | | 少年男子 | | 甲州市 甲州市塩山体育館 |
| | | 少年女子 | | 山梨市 山梨市民総合体育館 |
| 12 | ソフトテニス | 8月13日(土)・14日(日) | 笛吹市 石和中央テニスコート | |
| 13 | 卓球 | 8月13日(土)・14日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園体育館 | |
| 14 | 軟式野球 | 8月20日(土)・21日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園山日YBS球場 | |
| 15 | 馬術 | 8月20日(土)・21日(日) | 富士吉田市 富士北麓公園野球場 | |
| 16 | フェンシング | 8月20日(土)・21日(日) | 北杜市 山梨県馬術競技場 | |
| 17 | 柔道 | 8月21日(日) | 甲府市 甲府市総合市民会館 | |
| 18 | ソフトボール | 成年男子 | 8月20日(土)～22日(月) | 甲府市 小瀬スポーツ公園武道館 |
| | | 成年女子 | | 甲斐市 双葉スポーツ公園グラウンド |
| | | 少年男子 | | 甲府市 小瀬スポーツ公園球技場 |
| | | 少年女子 | | 甲斐市 釜無川スポーツ公園グラウンド |
| | | | | 中央市 中巨摩地区第二公園グラウンド |
| 19 | バドミントン | 8月20日(土)・21日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園体育館 | |
| 20 | 弓道 | 8月21日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園武道館 | |
| 21 | ライフル射撃 | 8月20日(土)・21日(日) | 埼玉県長瀬町 埼玉県長瀬射撃場 | |
| 22 | 剣道 | 8月14日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園武道館 | |
| 23 | ラグビーフットボール | 成年男子 | 8月27日(土) | 南アルプス市 御勅使南公園ラグビー場 |
| | | 少年男子 | 8月26日(金)・28日(日) | |
| | | 女子 | 8月28日(日) | 甲府市 山梨学院大学和戸ラグビー場 |
| 24 | 山岳 | リード ボルダリング | 7月30日(土)・31日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園体育館 |
| 25 | カヌー | スプリント | 7月17日(日) | 富士河口湖町 精進湖カヌー競技場 |
| | | スラローム | | |
| | | ワイルドウォーター | 6月5日(日) | 東京都青梅市 多摩川特設コース |
| 26 | アーチェリー | 8月21日(日) | 甲斐市 敷島総合公園多目的運動場 | |
| 27 | 空手道 | 8月27日(土) | 甲府市 小瀬スポーツ公園武道館 | |
| 28 | クレー射撃 | 8月21日(日) | 神奈川県伊勢原市 神奈川県立伊勢原射撃場 | |
| 29 | なぎなた | 7月17日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園武道館 | |
| 30 | ボウリング | 7月16日(土)・17日(日) | 甲斐市 ダイトースターレーン双葉 | |
| 31 | ゴルフ | 7月11日(月)・12日(火) | 富士河口湖町 富士桜カントリー倶楽部 | |
| 32 | アイスホッケー | 成年男子 | 12月17日(土)・18日(日) | 甲府市 小瀬スポーツ公園アイスアリーナ |
| | | 少年男子 | 12月24日(土)・25日(日) | |

◆「大会実施要項」



◆大会ホームページ

大会日程、各会場へのアクセス、競技結果等については、ホームページでもご覧になれます。

第71回国体関東ブロック大会

検索

「山梨県立博物館協力員」として活動してみませんか？

県立博物館

山梨県立博物館は、昨年開館10周年を迎えました。この間、多くの皆様に利用され、親しまれてきました。こうした県立博物館の活動を10年間、途切れることなく支え続けてきたのが「協力会」というボランティア団体です。11年目の県立博物館では、新たに活動していただける協力員さんを随時募集しています。

1 目的

県立博物館の運営・活動に協力していただき、それらをとおして、よりきめ細かなサービスを行い、開かれた博物館をめざすことを目的とします。



2 活動

県立博物館協力員は、必要に応じて次の活動を行います。

- | | |
|--|------------------------|
| (1) 鑑賞・学習のための助言及び相談 | (2) 来館者の誘導、案内及び体験活動の補助 |
| (3) 図書、資料、写真などの整理 | (4) ミュージアムショップの運営 |
| (5) イベントや博物館運営の補助 | (6) 畑の耕作など野外施設の管理 |
| (7) その他、来館者の鑑賞や学習に寄与する活動、博物館の発展に寄与する活動 | |

3 条件

- (1) 山梨県立博物館の活動に理解と関心を持ち、積極的に館の活動に協力していただける方。
- (2) 博物館活動の一端を担っていただくため、館長が協力員として委嘱します。
- (3) 月1回以上の活動が可能な方。
- (3) 満18歳以上の方。
- (4) 協力員は無報酬です。交通費、食事代等も自己負担となります。
- (5) 1期2年の委嘱とします。再任は妨げません。
- (6) 協力員の皆様には、県立博物館協力会に入会していただいております（年会費1,000円）。

4 応募の方法・申込先・募集期間

- ・応募方法：山梨県立博物館にご連絡ください。所定の用紙をお渡しいたします。
所定の用紙に必要事項を記入し、年会費1,000円と共に直接ご持参ください。
- ・申込先：「山梨県立博物館 協力員募集」係
〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1
電話：055-261-2631(代) FAX：055-261-2632
- ・募集期間：随時受け付けています。

5 募集人数及び活動内容の決定

- (1) 募集人数 約30名
- (2) 応募された方を対象にアンケート調査やヒアリング（聞き取り）を行い、活動していただく内容を決めさせていただきます。

6 研修

- ・活動していただく内容に必要な専門的な研修を行います。



～お庭ガイド（毎月第3土曜日）の様子～

考古博物館開催の講座・セミナーのお知らせ

県立考古博物館

■ 考古博物館では、年間を通して歴史・考古学に関するさまざまな講座やセミナーを開催しています。教科書には載っていない身近な地域の歴史を再発見しませんか。

● 館長講座 萩原三雄館長が語る「金銀山遺跡の考古学」

- 第2回 平成28年6月18日(土) 『丹波山金山遺跡』の発掘調査
 - 第3回 平成28年8月20日(土) 「鉱山臼と粉成(こなし)のシステムの研究」
 - 第4回 平成28年10月29日(土) 「製精錬の研究(灰吹法・焼金法・溶解)」
 - 第5回 平成28年12月17日(土) 「金付着土器の発見」
 - 第6回 平成29年2月25日(土) 『甲州金』の成立への技術的過程
- ※各回とも午後1時30分～午後3時、定員100名、事前申し込み不要(第1回は終了)。

● 考古学講座 「古代の甲斐」～奈良・平安の甲斐国について～

- 第1回 平成28年6月4日(土) 「古代の甲斐と考古学：総論」
 - 第2回 平成28年6月25日(土) 「古代の木材利用」
 - 第3回 平成28年7月16日(土) 「古代の道と駅」
 - 第4回 平成28年8月13日(土) 「発掘された牧」
- ※全回通しての受講、または第1回のみ受講希望の方は5月6日(金)から、以降の各回は開催日の1か月前から受付を開始します。電話またはホームページの電子申請からお申し込み下さい。

● 史跡文化財セミナー：専門の講師による解説とともに歴史路をめぐる

- 第2回 平成28年7月31日(日) 第68回「下吉田を歩く」
 - 第3回 平成29年3月12日(日) 第69回「本遠寺周辺を訪ねる」
- ※開催日の1か月前から受付を開始します。電話またはホームページの電子申請からお申し込み下さい(第1回は終了)。



第14回「わたしたちの研究室」作品募集

考古博物館では小中学生の皆さんを対象に、歴史・考古学分野に関する研究成果を募集・表彰し、応募いただいたすべての作品を展示公開するコンクール「わたしたちの研究室」を主催しています。

今回で14回目を迎える本コンクールには、毎年子どもたちが自由な発想で研究した成果が寄せられており、特に自分の足で現地を歩き、自分なりに発見し考察する過程を重視した内容を高く評価しています。昨年も、甲州金をテーマに遺跡や資料館をめぐり、砂金採り体験や遺跡についてのインタビューをまじえて分かりやすくまとめた研究や、弥生時代の高床倉庫の再現に挑み、一から造り上げていく過程を記した研究成果などが寄せられ、大人の研究者にも負けない鋭い視点と発想力が際立っていました。

今年は10月1日(土)～12月4日(日)の期間に作品を募集します。未来の研究者たちによる力作をお待ちしています。

◆問い合わせ先

山梨県立考古博物館 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882
HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!